

CAS	542756
物質名	1,3 - ジクロロプロペン
IARC Vol. (発行年)	71 (1999年)
遺伝子傷害性に関する知見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ in vivo 試験系では、細菌を用いた試験で遺伝子突然変異を誘発した。また、マウスの骨髄細胞を用いた試験で小核誘発を、哺乳動物の培養細胞で姉妹染色分体交換及び DNA 傷害を認めた。</li> <li>・ 主な代謝経路は、グルタチオン抱合を経たメルカプツール酸としての排泄であり、代謝物としてアルキル化物質が生成された。</li> </ul>
実験動物に関する知見	<p>評価：十分な証拠</p> <p>概要：マウス、ラットへ強制経口投与した結果、マウスでは膀胱、肺及び前胃に、ラットでは肝臓及び前胃に腫瘍を認めた。</p> <p>マウスに吸入暴露させた結果、細気管支、肺胞上皮の腺腫を認めた。</p>
ヒトに関する知見	<p>評価：評価に利用できる疫学データがない。</p> <p>概要：評価に利用できる疫学データがない。</p>
評価結果	<p>上記のとおり、本物質は細菌を用いる試験をはじめとする複数の試験系で遺伝子傷害性が認められているため、より詳細な情報収集を行う必要があると考えられた。</p>